

研究主題「集団活動におけるリーダー性をはぐくむ指導の工夫」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
品川区立芳水小学校 教諭 山本佳子

I 研究のねらい

1 研究主題設定の理由

21世紀は「知識基盤社会」の時代であると言われている。「知識基盤社会」とは、新しい知識・情報・技術が、社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増すことを意味している。このような知識基盤社会化により、国際競争が激しくなるこれからの時代を生きる子供たちには、他者とのかかわる力とともに、様々な課題を解決していく力が必要になる。

平成20年5月「東京都教育ビジョン(第二次)」では、「他者との人間関係を築き、協調したり切磋琢磨したりしながら、自分の役割を果たしていく力を身に付けることが極めて重要である。」と述べられている。

しかし、現実には、自分に自信がもてずに、人とかかわることに消極的な児童や、集団活動において重要な役割であるリーダーをやりたがらない児童の増加など、人間関係の形成が困難かつ不得意になっているという指摘がある。

本研究では、リーダー性をはぐくむことにより、他者とのかかわる力や、様々な課題を解決していく力が身に付くと考えた。そこで、集団活動において児童一人一人にリーダーの役割を理解させ、発達段階に応じたリーダーの経験と、教師による適切な指導を積み重ねながら、すべての児童にリーダー性をはぐくむ指導とは、どのようなものかを明らかにする。

2 研究仮説

上記のねらいを達成するために、以下の仮説を立て検証する。

集団活動において児童一人一人にリーダーの役割を理解させ、発達段階に応じたリーダーの経験と教師による適切な指導を積み重ねることで、すべての児童にリーダー性をはぐくむことができるであろう。

II 研究の内容と方法

1 基礎研究

(1) リーダー性に関する先行研究・文献の分析

リーダー性に関する先行研究や文献から、望ましいリーダー像やリーダー性とは何かを明らかにした。ここでは、望ましいリーダー像を「友達の気持ちに気付き、活動のねらいを理解して表現することができ、具体的な行動を起こすことができる児童」と定義した。

また、すべての児童が身に付けるべきリーダー性を、課題達成機能と集団維持機能とし、これらを高めていくことが、リーダー性をはぐくむことにつながるととらえた。(表1)

表1 すべての児童が身に付けるべきリーダー性

	具体的な内容	機能を構成する力
課題達成機能	集団を構成する全員の力を活用し、与えられた課題を達成するために必要される機能	指示が出せる力・見通しをもって順序立てて取り組む力・問題を解決する力・時間内に課題を達成する力・役割分担する力・活動状況を把握する力
集団維持機能	集団を構成する全員の相互依存性を高め、集団活動の維持や強化のために必要とされる機能	意見を聞いてまとめる力・公平に接する力・思いや願いを受け止める力・気を配る力・信頼し支持する力・説得する力

(2) 指導のポイント

小学校学習指導要領解説特別活動編(平成20年8月)「学校生活における集団活動の発達的な特質を踏まえた指導」を基に、各学年で身に付けるべきリーダー性を明らかにした。そして、集団活動に関する先行研究や文献から、リーダー性をはぐくむ指導のポイントを、以下の3点に設定した。

・ リーダーとして行動するための方法の理解

活動の見通しをもち、集団を構成する友達を的確に導くことができるように、話合いの進め方、遊びのルール説明、役割分担の仕方など、リーダーとして行動するための具体的な方法を示し、理解させる。

・ 道徳的価値の自覚

リーダーとして友達の思いや考えを聞いたり、誰に対しても公正・公平に接したりするなど、仲よく協力して集団活動に取り組むことができるように、道徳的価値を自覚させる。

・ 自信をもたせる肯定的評価

リーダーとしての自信をもたせるために、「仲よく協力できたか」などの評価項目を示し、自己や他者、教師による肯定的な評価を継続して行う。

2 調査研究

平成20年9月、都内公立小学校において児童320名を対象に、リーダーの経験、リーダーへの意欲、リーダー性の自己評価について質問紙調査を実施し、分析と考察をまとめた。(表2)

表2 調査結果の分析と考察

調査結果の分析	考察
課題達成機能が高い児童は、集団維持機能も高い傾向がある。	課題達成機能と集団維持機能という二つの機能は相互補完的に向上させることが可能である。 また、課題達成機能と集団維持機能の自己評価を バランスよく向上 させることが、リーダーへの意欲向上につながる。
課題達成機能、集団維持機能について、自己評価が高い児童は、リーダーへの意欲が高い。	
リーダーの経験が多い児童は、リーダーへの意欲が高い。しかし、第1・2学年では、リーダーの経験にかかわらず、リーダーへの意欲が高い。	学年が進んでも、リーダーの経験が多い児童は、リーダーへの意欲を維持することができるが、経験が少ない児童は、リーダーをやりたくないと回答する傾向が強い。リーダーへの意欲が高い低学年から、 すべての児童にリーダーの経験 をさせることで、意欲をもたせていく必要がある。
リーダーへの意欲が低い児童は、リーダーをやりたくない理由に、リーダーの経験不足を挙げていることが多い。特定の児童が、リーダーになる現状が見られる。	
学年が進むにつれ、リーダーをやりたくない理由に、「リーダーとしてどのように行動したらよいか分からない。」「大変だから。」「自信がない。」と答える児童が多く見られるようになる。	リーダーとして行動するための方法を理解させること、必要に応じて支援すること、肯定的な評価を行うこと、 これらを継続して行うこと により、リーダーとしての行動が分かり、自信をもって活動に取り組めるようにすることが重要である。

調査研究から、リーダー性をはぐくむには、課題達成機能と集団維持機能の自己評価の向上だけでなく、リーダーの経験を積み重ねることと、リーダーへの意欲を向上させることも重要であることが明らかとなった。

以上のことから、すべての児童にリーダーの役割を意図的に経験させ、指示を出すなどの具体的な方法を身に付けるための取組や、教師や他の児童による肯定的な評価を繰り返し行うことが、リーダー性をはぐくむ指導として効果的であると考えた。

3 カリキュラム開発研究

(1) リーダー性をはぐくむための各学年学習プラン

全学年を通して系統的にリーダー性をはぐくむことを目的とし、リーダーの役割を理解し、リーダーを経験する活動を行う、各学年の発達段階に応じた学習プランを作成した。

(2) 朝の会や帰りの会の時間などの短時間で、リーダー性をはぐくむ活動例

児童にリーダー性をはぐくむ機会を増やし、10分間という短い時間で継続することを目的とし、課題達成機能と集団維持機能を構成する力を身に付けるための活動例を作成した。

(3) リーダーマニュアルカード

リーダーになった児童が、活動に応じて使用できる、リーダーマニュアルカードを作成した。

4 実践研究（検証授業）

平成20年10月、都内公立小学校第1学年（2学級、計50名）を対象に授業を行い、リーダーの役割理解と、遊びにおけるリーダーの経験をする単元を実施した。また、単元終了後に9月に実施したリーダー性の質問紙調査を再度行い、変容を把握した。

(1) 単元名 「リーダーってなあに」

(2) 単元の目標

集団活動におけるリーダーとは何かを理解し、リーダーの役割を経験したり、楽しく主体的に集団活動に参加したりすることができる。

(3) 単元の指導計画と評価計画、及びリーダー性をはぐくむ指導のポイント（4時間扱い）

	学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)	リーダー性をはぐくむ指導のポイント
第1時	集団維持機能の向上 紙芝居を通して、リーダーという言葉を知り、リーダーの必要性に気付いたり、リーダーの役割について考えたりする。	紙芝居を通して、リーダーという言葉の意味を理解し、リーダーの役割を自分なりの言葉で表現する。 (発言・ワークシート)	道徳的価値の自覚 紙芝居を通して、リーダーの役割を考えさせ、リーダーになった時は、友達に思いやりをもって、公正・公平に接することができるようにする。
第2時	課題達成機能の向上 リーダーとして遊びを進めることを知り、どんな遊びをするのかを決め、遊びのルール説明を考える。	リーダーとしてどのように行動したらよいか想像し、遊びのルール説明を考え、遊びの説明をする。 (行動観察・ワークシート)	リーダーとして行動するための方法の理解 教師が一斉指導の場で、ルール説明の仕方を示したり、遊んでいる時に起こりうる場面を想定し、具体的にどう行動すべきか考えさせたりすることにより、見通しをもって集団活動を的確に導くことができるようにする。
第3時	集団維持機能・課題達成機能の向上 遊びのリーダーを経験し、リーダーとしてどのように行動すればよいか具体的な方法を理解し、実際にリーダーとして集団活動を進める。	リーダーとして、集団の友達に、自分の考えた遊びを説明し、みんなで仲よく楽しく遊べるよう、集団の中心となり活動を進める。 (行動観察)	実際にリーダーを経験することで、分からないことを尋ね、リーダーの役割を果たすことができるようにする。
第4時	集団維持機能・課題達成機能の向上 遊びのリーダーとしての活動を振り返る。また、リーダーとして活動している時の友達のよさを見付け、それを友達に伝える。 リーダーがどのような場面が必要かを知り、それぞれの場面における具体的な行動目標を立てる。	遊びのリーダーとして自分の行動を振り返る。また、リーダーとして活動している時の、友達のよさに気付く。 リーダーがどのような場面が必要かを知り、それぞれの場面における具体的な行動目標を立てる。 (発言・ワークシート)	自信をもたせる肯定的評価 リーダーとして、集団のみんなと仲よく協力して活動できたかを、ワークシートを活用し自己評価させる。 また、友達がリーダーをやっている時のよさに気付かせ、伝え合う場を設け、肯定的に評価されることにより、自信をもたせるようにする。 各場面における具体的な目標を認め、リーダーへの意欲をもてるようにする。

(4) 検証授業の結果と考察

事前に説明の仕方を考える時間を設けたことで、安心して遊びのリーダーとして活動することができ、リーダーという役割を果たすことができたという、達成感を味わうことができた。

そのため、単元終了後、様々な場面において、リーダーをやってみたいと答える児童が増えた。(図1)

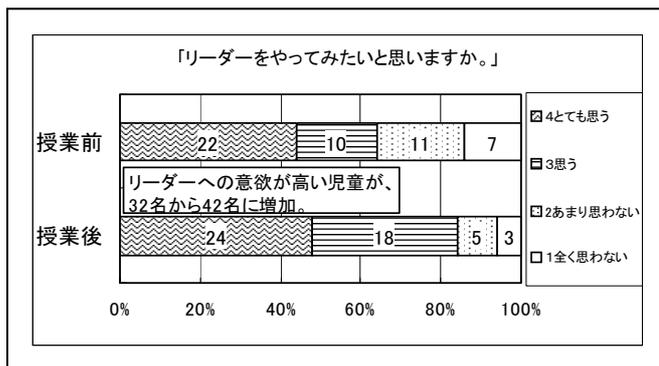


図1 リーダーへの意欲の変化

表3 抽出児童Aの変化

授業前			
課題達成機能	集団維持機能	リーダーへの意欲	児童Aをリーダーに選択した児童
2.44	2.63	全く思わない	0名

↓

授業後			
課題達成機能	集団維持機能	リーダーへの意欲	児童Aをリーダーに選択した児童
2.67	3.75	思う	2名

※各機能の数値は、質問紙調査の平均値(最高値は4)

また、授業前、課題達成機能・集団維持機能の自己評価や、リーダーへの意欲が低い児童を抽出し、授業前と授業後の質問紙調査の比較を行った。(表3)

児童Aは集団維持機能についての自己評価や、リーダーへの意欲が大きく向上していることが分かる。また、2名の児童が、児童Aをリーダーに選んでいることから、児童Aのリーダー性には変化が見られたと考えられる。

III 研究の結果と考察

基礎研究、調査研究及び実践研究を通して、集団活動におけるリーダー性をはぐくむには、以下の指導の工夫が有効であることが分かった。

1 第1学年からのリーダーの役割を経験する学習

自己中心性が高く、集団のまとまりは弱いと言われる第1学年の児童ではあるが、意図的にリーダーを中心とした集団活動を取り入れていくことが重要である。それにより、リーダーへの意欲の高さを生かし、児童の実態に合った紙芝居などの教材を通して、リーダーの役割を理解したり望ましいリーダー像を共有したりしながら、多くの児童がリーダーの経験を通して、課題達成機能や集団維持機能の自己評価を向上させることができた。

2 自信をもたせる肯定的な評価の習慣化

リーダーを経験するたびに、友達や教師による肯定的な評価を受け、自分のよさや課題を振り返ることで、「自分もリーダーになれた」という自信をもつことができた。このような取組を習慣化することにより、リーダーへの意欲を低下させることなく、多くの児童がリーダーへの意欲を維持できた。

以上のような指導の工夫により、リーダー性をはぐくまれることで、他者とかかわる力や課題を解決する力が身に付いたと考えられる。

IV 今後の課題

第2学年以上の児童に対し、発達段階に応じて、リーダー性をはぐくむ学習内容の系統性をもたせた指導を行う。また、様々な教科・領域における集団活動においても、一人一人が身に付けたリーダー性を発揮し、主体的に取り組めるかを明らかにするなど継続して研究を進める。

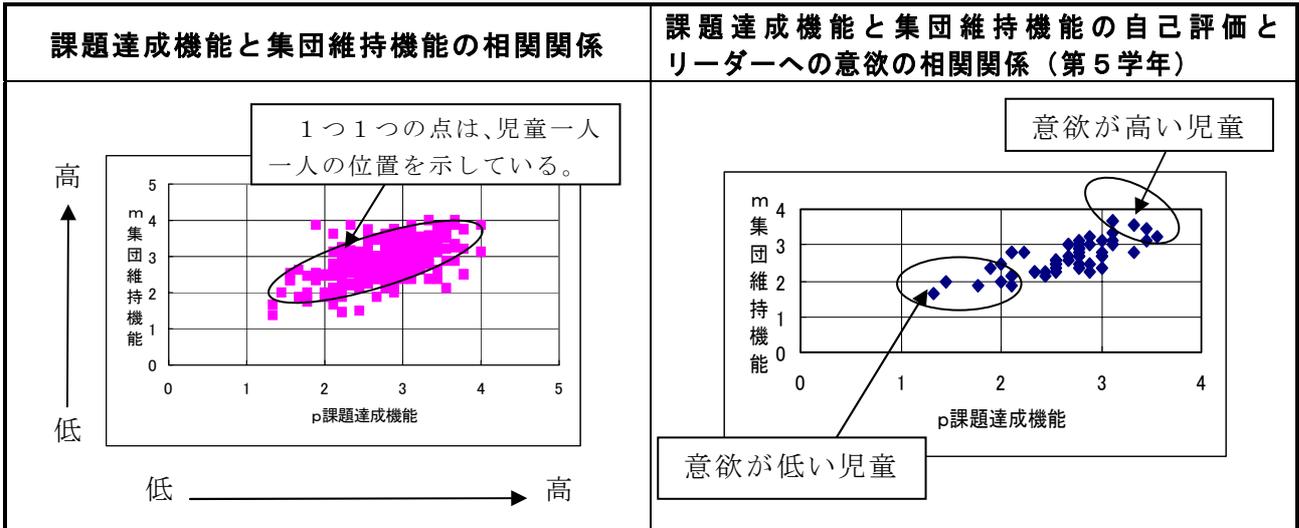
研究主題「集団活動におけるリーダー性をはぐくむ指導の工夫」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
品川区立芳水小学校 教諭 山本佳子

【補助資料1】調査研究

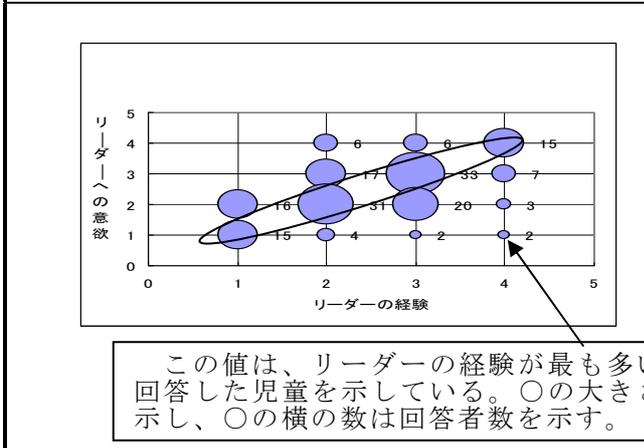
調査概要

目的：児童のリーダー性について、児童用質問紙調査、及び教師用児童実態把握調査を基に把握する。
対象：都内公立小学校児童 320名 学級担任 12名
時期：平成20年9月
内容：児童のリーダー性について、課題達成機能9項目、集団維持機能8項目、リーダーの経験、リーダーへの意欲について、4件法質問紙及び自由記述で調査を行った。

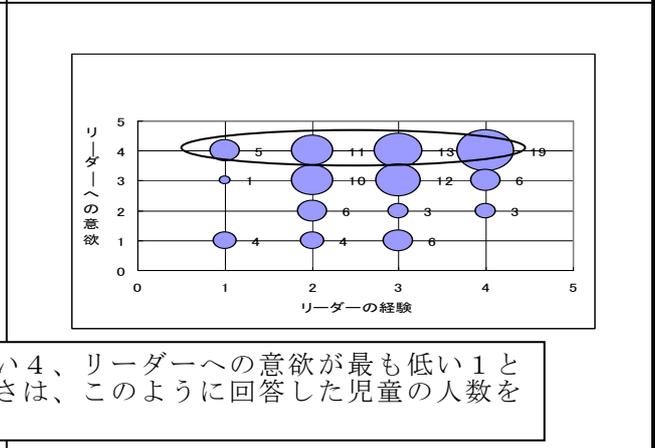


リーダーの経験とリーダーへの意欲の相関関係

第3・4・5・6学年児童の結果



第1・2学年児童の結果



リーダーになりたい理由 (第3学年以上の児童で、4名以下の回答内容省略)

	回答内容	回答者数
1	みんなをまとめた	24
2	自分のためになる	12
3	やったことがない	11
4	みんなにまとめてもらいたい	5
4	みんなのためになりたい	5

リーダーになりたくない理由 (第3学年以上の児童で、4名以下の回答内容省略)

	回答内容	回答者数
1	まとめることができない	20
2	リーダーをやる自信がない	9
3	リーダーシップがとれない	7
4	はずかしい	6
5	指示や説明ができない	5
5	やったことがない	5

【補習資料2】学年別リーダー性をはぐくむ学習一覽表

学年	学校生活における集団活動の発達の特質 (小学校学習指導要領解説「特別活動編」より)	発達を踏まえた指導	単元名(3から6時間単元)	具体的方法の理解	リーダー性をはぐくむ指導の自覚	ポイント	教科・領域 学習との関連
第1学年	感情的、衝動的な言動が多い。学年後半になると、教師を中心とした学級集団への所属感や一体感が現れ始める。また、2、3人の小グループにおいて仲よく活動することができるようになる。しかし、友人関係は全体として流動的で結びつきも弱く、学級全体としての集団のまとまりは欠けている。	幼稚園の教育要領「人間関係」領域や幼児期の教育との接続を図り、小学校の集団活動に適應できるようにする。入学当初から徐々に大きな集団における幅広い人間関係の中で活動できるようにする。	「リーダーってなに」 ・遊びのリーダーの経験 ・具体的な行動方法自身に付ける。 ・留意点の理解	・あいさつの仕方 ・ルール説明の仕方	・他の友達と一緒に活動することのよさに気付く。	・仲よく協力してできたかを振り返る。	国語 (話し合い活動・群読) 生活 (お祭り・交流活動) 体育(ゲーム型) 音楽(合唱・合奏) 図工(共同制作)
第2学年	活動の中心になる児童が目立ち始め、他人の立場を認めたり、理解したりする立場や、よりよい学級生活を築こうとする自主性なども次第に高まっていく。各集団は仲間としての結びつきも、その期間も次第に長くなり、成員数も増え、集団での協同的な活動ができるようになっていくようになる。また、学級全体に目を向けたり、学校に対する所感や意見を述べたりして生活したり遊んだりすることができるようになる。	学年の集団など他の学級と一緒に関わり、活動に取り組む機会を適切に設けるなどとして、より大きな集団においても個人と集団が調和的に発達できるようにする。	「当番や係のリーダー」 ・当番や係のリーダーの経験 ・具体的な行動方法自身に付ける。 ・留意点の理解	・役割分担の仕方	・他の友達へのよさに気付かせ、自分に取り入れる。	・集団全員が思いや考えを聞くことができ、たかを振り返る。	国語 (話し合い活動・群読) 理科(実験) 社会(調べ学習) 体育(ゲーム型) 音楽(合唱・合奏) 図工(共同制作)
第3学年	集団感情や集団意識が強く育ち、いわゆる「われわれ意識」などの仲間意識が高まっていく。しかし、指図する者やされる者が次第にはっきりし、それぞれの仲間集団としての集団が分立し、集団同士の対立や集団への付和雷同な行動が見られるようになってくるなど、学級全体としてのまとまりが育ちにくく時期でもある。集団活動の目標について、ある程度持続して活動できるが、まだ個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属した成員の間にはっきりとした相互依存の関係は見られない。	学年の集団など他の学級と一緒に関わり、活動に取り組む機会を適切に設けるなどとして、より大きな集団においても個人と集団が調和的に発達できるようにする。	「学習イベントのリーダー」 ・学習イベントリーダーの経験 ・具体的な行動方法自身に付ける。 ・留意点の理解	・遊びの計画の仕方 ・集団編成の仕方	・多様な考えを出し合うことよさに気付かせ、必要に応じて譲歩する。	・集団全員が、各自のよさを発揮し、満足感を味わえたかを振り返る。	国語 (話し合い活動・群読) 理科(実験) 社会(調べ学習) 体育(ゲーム型) 音楽(合唱・合奏) 図工(共同制作)
第4学年	集団意識の達成に主体的にかかわったり、協同的活動に取り組んだりして、リーダー的な児童を中心に教師の力を借りなくてもある程度計画的な活動ができるようになり、自分たちでできまきまりをつくらせたりするようになる。また、男女の活動の違いも見られるようになり、男女別の集団もつくられるようになる。	最高学年としてリーダーシップを発揮したりする活動を設定するとともに、多様な他者を認めることの大切さを実感できるようにしたり、友だちの大切さを理解し、理解することができるようになる。	「学年行事リーダーになろう」 ・学年行事リーダーの経験 ・具体的な行動方法自身に付ける。 ・留意点の理解	・行事の理解 ・実行委員会運営の仕方 ・自己評価の仕方	・学級だけでなく、学年全体で活動することのよさに気付く。	・集団全員が意欲的に活動し、達成感を味わえたかを振り返る。	第3学年と同じ内容 クラブ活動
第5学年	中学年までの経験を生かして、自分たちで決めた集団の活動目標を大切に、常に実践活動を振り返り、改善しながらこれを達成しようとする感情や意識が強くなる。また、集団としての活動や自分の言動について振り返り、改善しようとする意識が高まっていく。一方、思春期に入ると、相手と自分を比較して自信を失ってしまったり、友人への不信感をもったり、傷ついたりして悩みや不安を感じるようになる。	最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度も育ち、役割や責任を自覚して活動できるようになる。また、思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動する児童も少なくない。	「様々なリーダー」 ・副リーダーの経験 ・各リーダー・副リーダーの留意点の理解	・各リーダー・副リーダーに必要となる資質や能力の理解 ・自己・他者評価の仕方 ・委員会・異学年・クラブ活動運営の仕方 ・学校行事における集団活動の統率の仕方	・様々な集団や多様な他者とふれ合いことの大切さを理解する。	・上級生からの肯定的な評価を基に、自分の活動を振り返る。	国語 (話し合い活動・群読) 理科(実験) 社会(調べ学習) 体育(ゲーム型) 家庭(調理実習) 委員会活動 クラブ活動 異学年交流活動
第6学年	児童会活動やクラブ活動、学校行事などにおいて中心的な役割を担うようになり、最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度も育ち、役割や責任を自覚して活動できるようになる。また、思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動する児童も少なくない。	最高学年としてリーダーシップを発揮しようとするなどの意識や態度も育ち、役割や責任を自覚して活動できるようになる。また、思春期特有の不安定な感情がより大きくなり、人間関係に悩んだり、先頭に立って活動する児童も少なくない。	「最上級生/学校のリーダーになろう」 ・学校行事や委員会活動など、学校全体にかかわるリーダーの経験 ・具体的な行動方法自身に付ける。 ・留意点の理解	・各リーダー・副リーダーに必要となる資質や能力の理解 ・自己・他者評価の仕方 ・委員会・異学年・クラブ活動運営の仕方 ・学校行事における集団活動の統率の仕方	・下級生に対して思いやりをもって接する。	・上級生からの肯定的な評価を基に、自分の活動を振り返る。 ・一つ一つの集団活動が、学校行事や全体の活動の成功につながるものであったかを振り返る。	国語 (話し合い活動・群読) 理科(実験) 社会(調べ学習) 体育(ゲーム型) 家庭(調理実習) 委員会活動 クラブ活動 異学年交流活動

【補助資料3】 検証授業 抽出児童Aの観察記録

	主な学習活動	児童Aの反応	指導のポイント	学習に対する意欲			
				低 1	2	3	高 4
第1時	1 リーダーという言葉の理解 2 幼保小交流活動での振り返り 3 リーダーの役割や必要性の理解 4 リーダーとしてどうするか 5 紙芝居で分かったこと	1 元気に挙手する。他の児童の発表を真剣に聞く。 2 「学校を案内して、何をするとどこか教えてあげた。」と発表する。 3 乱暴なライオンについて「みんなの物を取っちゃうからリーダーじゃない。」と発表し、その後集中が切れる。 4 黒板の掲示物を書き写し、担任の指導を受ける。 5 「ライオンは最初は意地悪だったけど、やさしくなった。」と発表する。	道徳的価値の自覚 ・リーダーはどのような役割をもつかなど、具体的に指導する。 自信をもたせる肯定的評価 ・児童の発表内容を繰り返し価値付けし、認める。	1 2 3 4	新しい学習に対し、意欲的である。		
第2時	1 課題提示 2 リーダーの経験をする説明 3 困った事例 4 考えてきた遊びを発表 5 ワークシートに遊びを記入 6 ルールの書き方の説明 7 ルール説明記入 8 次時の予告	1 無反応 2 紙芝居の登場人物が出てくるたびに、「あ！ライオンだ！」などと反応する。教師の説明に笑う。 3 勢いよく挙手するが、指名されない。 4 挙手し、「あっちむいてホイ」を紹介する。その後、机の中よりノートを取り出し、担任より質問され、「宿題を確認したかっただけ。」と答える。 5 ワークシートに何を記入すればよいかわからず、活動が停滞する。不安そうにルールを書き始める。 6 真剣に聞いている。 7 説明が終わると、黙々とルールを書き始める。参観者に遊びのルール説明をする。前の席の女兒と、トランプについて話し始める。 8 教師の「明日は遊びのリーダーになります。」に対し、「何で？」とつぶやく。	リーダーとして行動するための方法の理解 ・リーダーとして遊びのルール説明をどのようにやるか、具体的に遊びのルール説明の方法を示す。	1 2 3 4 5 6 7 8	紙芝居の内容が、強く印象に残っている様子が見られる。 家庭学習からも、本時への意欲が見られる。 課題が明確になり、活動に集中している。 まだ次時の見通しがもてていない。		
第3時	1 学習の確認 2 学習の流れ 3 他の児童がリーダーの時 4 自分がリーダーの時 5 他の児童がリーダーの時 6 遊びのおかわりタイム 7 リーダーをやった感想	1 集中していない。 2 教師の「一度しか言わないよ。」の言葉に反応し、集中し説明を聞く。 3 隣のグループの遊びに興味。リーダーの説明に集中していない様子。 4 手際よく一生懸命説明する。 5 宝探しが楽しく、夢中になり宝を探す。 6 全員一致で、もう一度宝探しをやることに決まる。 7 「宝探しで勝って嬉しかった。」と感想を発表する。	リーダーとして行動するための方法の理解 ・上手に分かりやすく、遊びのルール説明をしている児童の工夫に気付かせる。 自信をもたせる肯定的評価 ・遊びのルール説明を上手に行うなど、リーダーとしての行動に対し、賞賛の言葉をかける。	1 2 3 4 5 6 7	リーダーを支援しようとする姿が見られる。 「上手にできたね。」という指導者の言葉に「うん。」と嬉しそうに答える。		
第4時	1 リーダー経験の振り返り 2 どんなリーダーになりたいか 3 本単元の振り返り	1 挙手し、発表する。 2 「けんかをとめるリーダーになりたい。クラスに、けが人が出ないようにしたいからです。」と発表する。 3 「みんなのことを考えられる人が、リーダーです。」と発表する。	自信をもたせる肯定的評価 ・ワークシートや質問紙に書かれたリーダー性の自己評価や意欲に対し、よさを認める言葉を記入する。	1 2 3	発表のたびに、肯定的な評価を受け、授業全般を通し集中し、活発に発言している。		

